

佐原仮設住宅・浪江町の方々への活動報告

- ・月 日： 3月18日(日)
- ・時 間： 午前10時30分～11時30分
- ・場 所： 浪江町佐原仮設住宅集会所
- ・活動者： 河野恵夫 齋藤節子（記）

以前降った雪がまだ家の前に残っていた。
人の姿はまったく見られずとても静。
急いで集会所の中に入ると、よかった一人の声が聞こえた。

90歳近いご老人が、施設に置かれてあるマッサージ機を利用して、先に着た河野療法士との話し声であったことが解る。
しばらく3人で、3・11災害のさまざまなつらい思い、などなど・・・話す。お話の中で、ここの仮設には御子さん連れの方優先で入居されている、とのことであった。

時間になっても他に参加される方はお見えにならなかった。結局そのまま用意したお茶を飲みながら傾聴ボランティアをする。一年過ぎてもまだまだ癒えることはなく、逆にさまざまな不安が強いものになっていることが、残念ではあるが話のなかで感じられた。

またこの方は以前に帯状疱疹の経験があって、その後膝の痛みが続いていることを話される。しかし、ご高齢であることが無理にヨガを勧めることも、なかなか難しかった。パンフレットを渡したので、思い出したら是非体験していただきたいと思う。

*ボランティアの感想

参加者がいないのは残念でしたが、お話しする中でボランティアの原点に改めて気付かされました。なぜ自分がボランティアをしようと思ったのか、話し相手にしていただけたことも、「寄り添う」ということではないかと思えたからです。初心を確かめることができた時間でした。(河野 恵夫)